

2022年3月期 第3四半期

決算補足説明資料

2022年02月10日

三櫻工業株式会社

(証券コード：6584 東証一部)

■ 2022年3月期 第3四半期 連結損益状況

■ 2022年3月期 第3四半期 セグメント別実績

■ 2022年3月期 第3四半期 営業外及び特別損益等

■ 2022年3月期 第3四半期 営業利益分析

■ 2022年3月期 第3四半期 連結財務状況：対前期末

■ 2022年3月期 第3四半期 連結キャッシュ・フローの状況

■ 2022年3月期 通期業績予想

2022年3月期 第3四半期 連結損益状況



	2021年3月期 第3四半期 実績		2022年3月期 第3四半期 実績				2022年3月期 通期予想 (2/10公表)	
	金額 (百万円)	売上高比 (%)	金額 (百万円)	売上高比 (%)	対前年同期		金額 (百万円)	進捗率 (%)
					増減額 (百万円)	増減率 (%)		
売上高	79,849	100.0	85,449	100.0	+5,600	+ 7.0	115,000	74.3
営業利益	663	+ 0.8	2,915	3.4	+2,252	+ 339.8	3,100	94.0
経常利益	961	+ 1.2	3,162	3.7	+2,202	+ 229.2	3,400	93.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,576	+ 2.0	2,314	2.7	+738	+ 46.8	2,400	96.4

● 2022年3月期 第3四半期 業績概要 (対前年同期)

*金額単位:百万円

- 売上高：半導体供給問題、サプライチェーン問題に伴う自動車メーカーの減産の影響を受けるも、前年同期の減収要因となった新型コロナウイルス感染症の影響から回復し、+5,600増加。
- 営業利益：売上回復に加え、前期に実施した構造改革や固定費削減の効果等により +2,252増加。
- 経常利益：営業利益の回復、為替差損益の改善により+2,202増加。
- 純利益：上記要因による経常利益の増加により前年同期比で+738増加。

● 為替レート

損益換算レート (単位：円)	2021年3月期 第3四半期 平均レート	2022年3月期 第3四半期 平均レート	変動率
ドル	107.6	108.5	+1%
ユーロ	120.9	129.8	+7%
メキシコペソ	5.0	5.4	+8%
人民元	15.4	16.8	+9%
インドルピー	1.4	1.5	+6%
タイバーツ	3.4	3.5	+1%
ロシアルーブル	1.53	1.46	▲5%
ブラジルリアル	21.5	20.4	▲5%

2022年3月期 第3四半期 セグメント別実績

	売上高			営業利益		
	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	対前年同期 増減	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	対前年同期 増減
	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)
日本	31,409	31,585	+176	▲132	1,189	+1,320
北南米	22,050	23,489	+1,439	▲387	▲747	▲360
欧州	14,667	16,014	+1,347	351	242	▲109
中国	14,107	14,579	+471	777	1,089	+312
アジア	10,327	14,226	+3,899	200	1,395	+1,195
連結調整	▲12,711	▲14,443	▲1,732	▲146	▲252	▲106
合計	79,849	85,449	+5,600	663	2,915	+2,252

● 2022年3月期 第3四半期の地域別業績のトピックス (対前年同期)

- 日本【増収・営業黒字】 半導体・樹脂材料などの供給問題を起因とする生産減の影響を受けるも、前年同期の新型コロナウイルス感染症の影響から回復しセグメント間売上含む売上高は増加。また、前期からの固定費抑制効果も継続したことで利益も大幅に改善。
- 北南米【増収・赤字拡大】 半導体や樹脂材料不足の影響があったものの、前年同期の新型コロナウイルス感染症の影響から回復し増収。一方で利益面については、物流網の混乱、輸送費の高騰、材料費を含むインフレ、人手不足を背景とする人件費の上昇等により営業損失。
- 欧州【増収・減益】 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う大幅減産の影響を受けた前期から回復し増収。利益面では、これまで実施してきた固定費削減の効果が継続するも、各自動車メーカーの生産台数の急変及び原材料価格の高騰の影響を受け減益。
- 中国【増収・増益】 半導体不足による生産減の影響を受けるも、新型コロナウイルス感染症の影響のあった前年度とほぼ同水準の売上。また継続したコスト削減効果も寄与し増益。
- アジア【増収・増益】 新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けるも、前年に生じた大幅減産から回復し増収。また人件費等の固定費削減活動の継続効果も寄与し増益。

2022年3月期 第3四半期 営業外及び特別損益等



(増減額の符号は対利益符号)

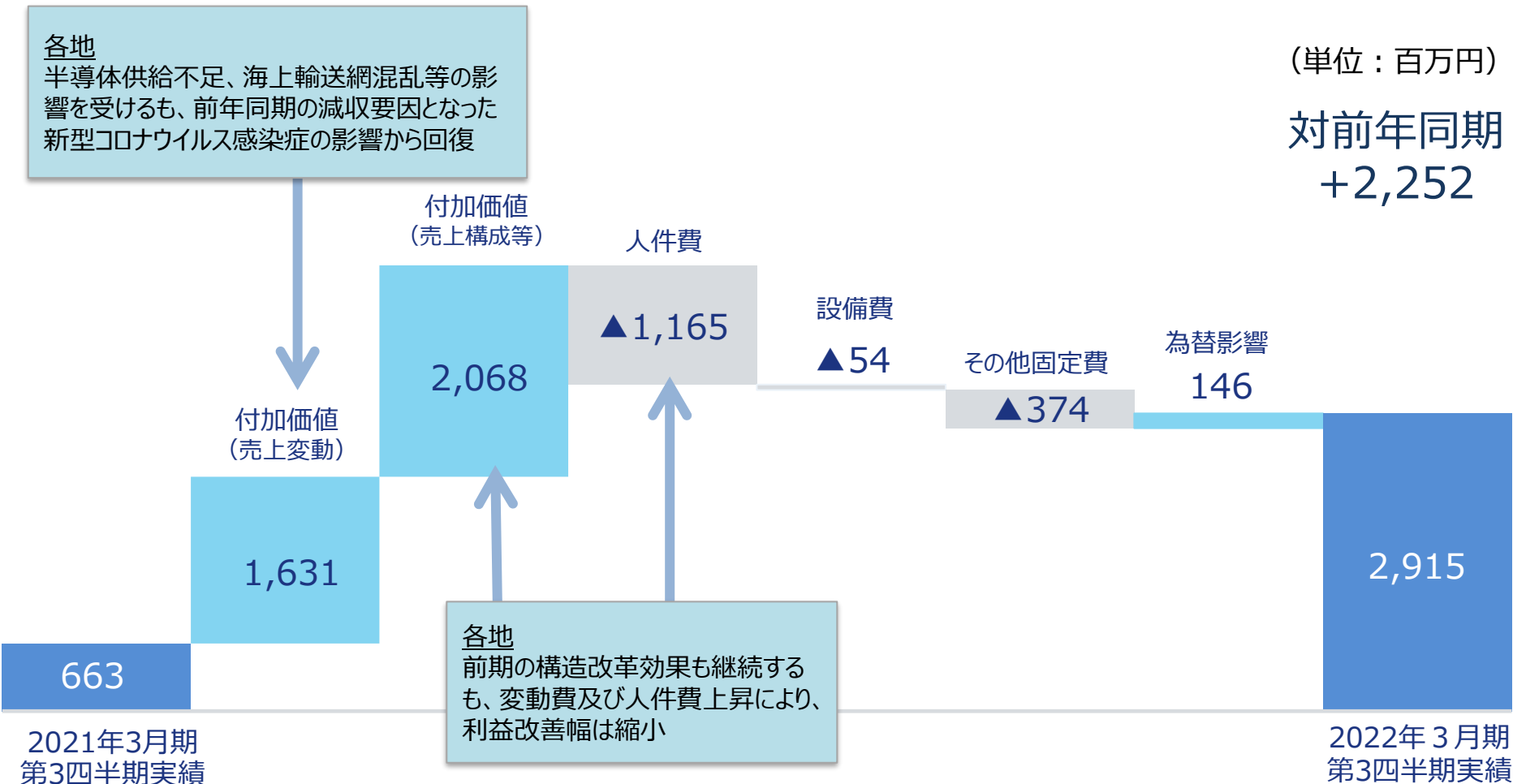
連結		2021年3月期 第3四半期 実績	2022年3月期 第3四半期 実績		主な増減要因 (金額は百万円)	
		金額 (百万円)	金額 (百万円)	対前年同期		
				増減額 (百万円)		増減率 (%)
営業利益		663	2,915	+ 2,252	+ 339.8	
営業外 損益	営業外収益	1,157	611	▲ 546		
	営業外費用	859	364	+ 495		
経常利益		961	3,162	+ 2,202	+ 229.2	
特別利益		2,061	794	▲ 1,268	投資有価証券売却益 ▲1,195 受取保険金 ▲795 製品保証引当金戻入益 +707	
特別損失		135	58	+ 78		
税引前四半期純利益		2,887	3,898	+ 1,011	+ 35.0	
法人税等		1,148	1,162	▲ 14		
非支配株主利益		162	422	▲ 260		
親会社株主に帰属する 四半期純利益		1,576	2,314	+ 738	+ 46.8	

2022年3月期 第3四半期 営業利益分析

新型コロナウイルス感染症の影響による売上減少からの回復により対前年同期から増益となるも第2四半期との比較では材料価格の高騰、人件費の上昇、インフレ影響により増益幅は縮小。

(単位：百万円)

対前年同期
+2,252



各地
半導体供給不足、海上輸送網混乱等の影響を受けるも、前年同期の減収要因となった新型コロナウイルス感染症の影響から回復

各地
前期の構造改革効果も継続するも、変動費及び人件費上昇により、利益改善幅は縮小

注：付加価値（売上変動）＝連結全体の売上増（為替補正後）×前期付加価値率（為替補正後）

2022年3月期 第3四半期 連結財務状況：対前期末



連 結		2021年3月期末		2022年3月期 第3四半期			
		実績 (百万円)	構成比 (%)	金 額 (百万円)	構成比 (%)	対前期末増減額 (百万円)	主な増減要因 (百万円)
資 産	流動資産	50,735	58.4	52,813	55.9	+ 2,077	総資産： +7,590 増加 ① 現預金 ▲867 ② 営業債権 ▲1,892 (半導体不足等による売上減影響) ③ 棚卸資産 +3,868 (生産変動や物流網混乱に備えた在庫確保) ④ 未収入金 +528 ⑤ 機械装置及び運搬具等の有形固定資産 +692 ⑥ その他投資有価証券 +4,715 (時価評価額の増加)
	固定資産	36,125	41.6	41,638	44.1	+ 5,513	
	資産合計	86,860	100.0	94,450	100.0	+ 7,590	
負 債	流動負債	33,929	39.1	35,867	38.0	+ 1,937	負債総額： +1,348 増加 ⑦ 短期借入金 +2,805 ⑧ 未払金 ▲1,198 ⑨ 長期借入金 ▲2,454 ⑩ 繰延税金負債 +1,918 (その他有価証券の増加に伴う増加)
	固定負債	17,452	20.1	16,863	17.9	▲ 589	
	負債合計	51,381	59.2	52,730	55.8	+ 1,348	
	純資産合計	35,478	40.8	41,720	44.2	+ 6,242	
負債純資産合計		86,860	100.0	94,450	100.0	+ 7,590	純資産： +6,242 増加 ⑪ 利益剰余金 +1,422 ⑫ 有価証券評価差額金 +3,344 ⑬ 為替換算調整勘定 +1,394 (ドルやユーロ等の主要通貨の円安影響)

(注1) D/E レシオ…前期末 0.80 → 当第3四半期末 0.67

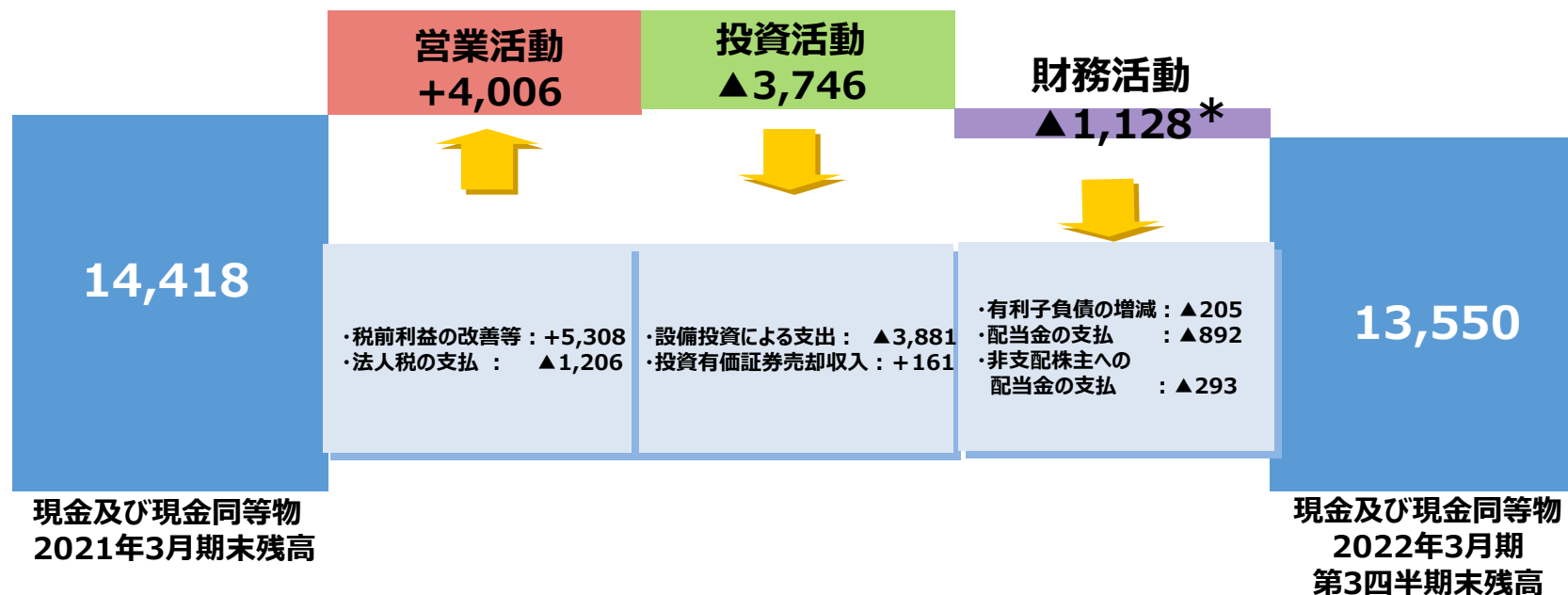
(注2) 自己資本比率…前期末 37.7 → 当第3四半期末 41.2

	前期末	当第3四期末
①有利子負債	26,016	26,236
②自己資本	32,716	38,916
①/②	0.80	0.67

2022年3月期 第3四半期 連結キャッシュ・フローの状況

● 2022年3月期 第3四半期 連結キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)



* 現金及び現金同等物に係る換算差額 (263百万円) を財務活動に含めております。

● 設備投資/減価償却の状況

(単位：百万円)

	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	
		実績	対前年同期
設備投資額	2,377	3,881	+1,505
減価償却費	3,724	3,832	+108

第3四半期実績および最近の業績動向等を踏まえて通期業績予想を修正

連結	2022年3月期 通期見込 (百万円)		対前回増減	
	前回予想 (2021年8月5日)	今回予想 (2022年2月10日)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	118,000	115,000	▲3,000	▲2.5%
営業利益 【営業利益率】	7,900 +6.7%	3,100 +2.7%	▲4,800	▲60.8%
経常利益 【経常利益率】	7,700 +6.5%	3,400 +3.0%	▲4,300	▲55.8%
当期純利益 * 【当期純利益率】	4,800 +4.1%	2,400 +2.1%	▲2,400	▲50.0%
一株あたり純利益 (円)	132.86	66.43	▲66.43	▲50.0%
配当 (円)	25.0	25.0	—	—

*親会社株主に帰属する当期純利益

通期業績予想を修正した要因

以下の業績動向を踏まえ、通期業績予想を修正します。

- 売上高：第3四半期累計期間の実績及び第4四半期の半導体供給不足に伴う自動車生産の減産により想定を下回ることが見込まれるため。
- 利益：輸送費の高騰、材料費を含むインフレ、人件費の上昇等により、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想値を下回ることが見込まれるため。

このプレゼンテーションで述べられている三櫻工業株式会社の業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものです。

マクロ経済や当社の関連する業界の動向、新たな技術の進展等によっては、大きく変化する可能性があります。

従いまして、実際の業績等が本プレゼンテーションと異なるリスクや不確実性がありますことをご了承下さい。また、大きな変更がある場合は、その都度発表していく所存です。